

# 目指すアスリート先生

## 18歳のリアル

### ④ 大学生

心に刻まれた思い出がある。中学3年の夏、下北地域の選手が一堂に会する中学校体育大会夏季大会だ。

最後の大会に懸ける思い、高まる周囲の期待。「緊張で頭が真っ白にな

八戸学院大の新田凜さん(18)は人間健康学科に通う1年生。勉強に励みながら、陸上競技に打ち込む。種目は走り高跳び。「努力が数字に表れるのが楽しい」と語る。

大間町生まれ。中学で陸上競技を始めた。当初は六つ年上の姉と同じように走り幅跳びをしてきたが、ある日、部活動の顧問に転向を勧められる。軽やかな跳躍、しなやかな柔軟性が求められる

競技。「当時、地元では背が高い方だった」と謙遜するが、日を追うごとに自分が驚くほど記録が伸びた。競技歴が浅いにもかかわらず、同年代で青森県内上位に食い込むほどに。高校でも競技を続け、部活動だけでなく自主練習も重ねた。高校時代に自己ベストの1.55を出し、東北大会に出場。特待生で大学に進学するきっかけにもなった。

## 環境変化 成長の糧に



走り高跳びの練習中に談笑する新田凜さん(右)。夢の実現へ挑戦を続ける＝5月中旬、八戸市内

### 第1部 描く未来

技者であり教育者。子どもを導くことができるアスリート先生だ。いつも隣にいた家族の元を離れ、この春から1人暮らし。周りに知って暮らしている人がいない。開放感と不安が相半ばする。炊事、洗濯、掃除…。甘えにも気付かされた。「家で少し手伝ってただけ、お母さんのありがたみが分かった」と苦笑。経済的にはともかく、自戦は続く。

立した暮らしとは程遠い。髪を明るく染め、耳にピアスの穴を開けた。大人になったと思える変化は、今はこれだけ。走り高跳びでは壁に突き当たった、新生活にも四苦八苦している。それでも表情は明るい。「環境の変化は成長するチャンスだと思ってる」。描く未来への挑戦は続く。

### (問) 18歳は大人？ 子ども？

クレジットカードの契約など、18歳になって新たにできることが増えた。それ自体はうれしい。これまで知らなかったことを、自分の知識として身に付けていきたい。

一能 藤村大地が担当しました